

### 水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 30、令和元 年度	事業者名	国土防災技術株式会社
補助事業名	フルボ酸を利用した沈水植物等の水草の肥料化実験		
補助事業結果概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表層刈取部フルボ酸溶液、根こそぎ刈取部フルボ酸溶液ともに 2,000 倍の希釈倍率が適切であることを確認した。</li> <li>・ フルボ酸よりも木酢液の方が水草の重量の減少が顕著となり、減容化を促進する効果があることが分かった。</li> <li>・ 肥料成分の溶出については、全てのサンプルで 11 日養生した時点で EC 値（電気伝導度）は低下する傾向があることが分かった。表層刈取部では K2O、CaO、Mn の溶出量が多く、根こそぎ刈取部については K2O、CaO、Mn だけでなく Fe の溶出量が多いことが分かった。</li> </ul>		
本年度（令和 2 年度） の状況 ・ 技術開発等の状況を含む	<p>令和 2 年度水草等対策技術開発支援事業の採択を受け、引き続き純国産フルボ酸を利用した沈水植物等の水草の肥料化実験を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 希釈倍率 2,000 倍であれば、どの農地でも濃度障害が発生しないことを確認した。</li> <li>・ ほうれん草、白菜、大根で散布試験を実施した結果、全ての作物で生育速度の向上を確認した。</li> <li>・ 収穫作物の品質については、ほうれん草において、散布区の方が葉は大きく、根が太くなっていることを確認した。</li> <li>・ 収穫量については、ほうれん草や大根の散布区において、非散布区よりも収穫率が高いことを確認した。更に、表層刈取部フルボ酸溶液と根こそぎ刈取部フルボ酸溶液の散布区の方がフジミン散布区よりも収穫率が若干高いことが分かった。</li> <li>・ DW ファイバーのような有機物は、汚泥コンポストとフルボ酸を配合することによって発酵を促進し、堆肥化できることが分かった。DW ファイバーと同様、水草残留物は有機物であるため汚泥コンポストを配合することによって堆肥化できると考えられる。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ 本事業で開発した液肥や堆肥は「特殊肥料」に該当し、滋賀県知事に届出を出し、適切な品質表示をすることによって登録が可能であることが分かった。また、有機 JAS 資材登録についても、原材料証明書や製造工程図を提出することで登録可能な可能性が高いことを確認した。</li></ul>
備考	

注意：当該資料は PDF 化し、HP で公表を予定しています。

企業秘密等、公表されることで、不利益となること等は記載しないでください。

記入例

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 年度	事業者名	株式会社〇〇〇〇
補助事業名	水草の短期間堆肥化および水草繁茂抑制技術の開発		
補助事業結果概要（※）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 6 か月間での堆肥化に成功した。 また、堆肥の成分を分析したところ、市販品と比較して高い肥料成分が含まれていることが判明した。</li><li>・ 水槽実験により、薬剤による水草の繁茂抑制について試験をおこなったところ、効果が認められなかった。</li></ul>		
本年度（令和元年度）の状況 ・ 技術開発等の状況を含む	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 短期間で作成した堆肥について、所有する畑で栽培の実証実験を行った。 市販品の堆肥と比較して、高い効果が得られた。 今後は、施設の拡大による生産量の増加および市場調査の実施にを予定している。</li><li>・ 水草繁茂抑制技術の開発については、補助事業の結果をもとに、さらなる技術開発に向けて社内で検討中である。</li></ul>		
備考			

※補助事業結果については、実績報告書にて報告をいただいておりますが、結果を公表するにあたり、改めてお伺いしています。

企業秘密等、公表されることで、不利益となること等は記載しないでください。